



研究者名※	中村 玲 NAKAMURA Rei	学位※	修士(芸術学) 博士(芸術学)
所属※	国際文化学部 国際文化学科	職名※	助教
連絡先	nakamurarei@fc.jwu.ac.jp		
URL			
researchmap※	<a href="https://researchmap.jp/rei-n0514">https://researchmap.jp/rei-n0514</a>		
研究分野※	日本美術史		
研究キーワード※	日本美術、近世絵画、女性画家		
共同研究・競争的資金等の研究課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文書・典籍料紙における繊維の再利用に関する基礎的研究(科学研究費・基盤C・研究分担者、2019～2024年)</li> <li>・17世紀の女性画家・照山元瑤に関する基礎研究(科学研究費・若手・研究代表者、2018～2023年)</li> <li>・江戸前期の表絵師の画業に関する基礎的研究(実践女子大学平成29年度特定研究奨励金助成・研究代表者、2017～2018年)</li> <li>・東アジア文化の基層としての儒教の視覚イメージに関する研究(科学研究費・基盤A・研究協力者、2014～2018年)</li> <li>・表絵師・勝田竹翁の画業にみる江戸狩野派の研究(公益財団法人出光文化福祉財団調査・研究助成、研究代表者、2016～2017年)</li> </ul>		
社会貢献・産学官連携活動等			
受賞歴			

研究領域	日本美術史	(SDGs)
研究テーマ※	江戸時代前期の皇女による肖像画の研究	
概要※ (概ね1000字以内) (写真・グラフ等自由)	<p><b>【研究の背景・目的・内容】</b> 江戸時代前期に、自画像、父や兄弟姉妹など多くの肖像画を描いた皇女(尼僧)・照山元瑤(1634-1727)や元瑤の姪にあたる徳巖理豊(1672-1745)等による作品の分析、文献史料の精査等を通して、彼女らの制作の実態を明らかにすることを目的とする。この時代、一般的に肖像画は当代屈指の男性画家や絵仏師により描かれたが、像主の身近にいた等の理由で女性画家がその役割を担う例も散見される。しかし、この事象については論究されておらず、実証的な研究も遅れているといえる。数多くの肖像画を描いた他に類を見ない女性画家として、彼女たちを日本美術史上に明確に位置づけるべきという考えのもと、本テーマを設定した。</p> <p><b>【応用例、研究の展望】</b> 女性が表舞台に現れることが少なかった江戸時代前期に、肖像画制作を行い活躍した皇女の画業に着目する。彼女らは幼い頃より学問や和歌などの教養の習得が必要であり、和歌短冊などの作品は比較的多く現存するが、元瑤や理豊は特に肖像画を得意とした。彼女らの画業を明らかにすることは、日本美術史における皇女の絵画制作の実態を解明できるだけでなく、この時代に伝統を重視しつつも女性が創造力を発揮し得たという新たな視座をもたらすものと考えられ、文化史、仏教史、女性史などの周辺諸学にも貢献できるものと判断する。</p> <p><b>【研究方法の特色】</b> 管見の限り、数十点の作例が現存する江戸時代前期の皇女が描いた肖像画に焦点を当て、丹念な悉皆調査と史料の精査により、基礎的なデータベースを作成する。それをもとに、画風や表現、その変遷、制作背景、像主との関連などを詳細に紐解いていく。これまででも多くの女性画家について研究を蓄積してきたが、本テーマによって江戸時代前期の女性画家に関する基礎研究がさらに充実するものと考えられる。</p>	
本研究関連特許・論文等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中村玲「黄檗寺院旧蔵、現蔵の照山元瑤筆「後水尾法皇像」」『黄檗文華』第141号、黄檗山萬福寺文華殿、p.93-106、2022年8月</li> <li>・中村玲「照山元瑤の落款に関する試論」『崇城大学芸術学部研究紀要』第14号、崇城大学芸術学部、p.107-127、2021年3月</li> <li>・中村玲「照山元瑤筆「観音図」に関する考察」『実践女子大学美術学』第35号、実践美学美術史学会、p.19-34、2021年3月</li> </ul>	
共同研究・外部機関との連携への期待	国内外の女性画家に関する共同研究	

